

# 平成26年度 学校自己評価システムシート ( 県立深谷はばたき特別支援学校 )

目指す学校像	子供が生き生きと学び、活動し、教職員が元気で活気のある学校
--------	-------------------------------

重点目標	1 個別の教育支援プランを効果的に活用した、一人一人の実態に即した指導・支援の充実 2 キャリア教育の視点を踏まえた系統的な指導の実践と高等部における多様な教育課程の検討 3 センターの機能を発揮した地域支援・学校支援の充実と開かれた学校づくりの推進
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	5名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					26年度評価(2月6日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○個別の教育支援プランを効果的に活用し、一人一人の児童生徒の実態に即した指導・支援を充実させる必要がある。 ○授業研究・校内研修等を充実させ教員の指導力向上に取り組む必要がある。	児童生徒の実態に即した指導・支援の充実 教員の資質と指導力向上	①個別の教育支援プランを効果的に活用した個に応じた指導方法の工夫改善 ②児童生徒の障害や課題に応じた自立活動並びに領域・教科を合わせた指導の充実 ③教員の指導力向上に向けた授業研究と校内研修・学部研修等の計画的な実施と積極的な参加(ポニーの活用 ICT の活用に係る研修・教育実践の充実を含む) ④校外研修等への積極的な参加	①教育支援プランを踏まえ、個に応じた指導の工夫改善に取り組んだか。 ②児童生徒の課題やねらいを明確にした指導の充実に取り組めたか。 ③授業研究や校内研修会等を計画的に実施し指導力の向上を図ったか。 ④研修参加者数は増加したか。	①②教育支援プランを中心に、自立活動部による指導・支援や担任へのアドバイス、学年内の共通理解など、児童生徒の課題を明確にして個に応じた指導実践に取り組んだ。 ③④学部研修を計画的に実施したほか ICT、危機管理、保健等校内研修を12講座実施。長期休業中に職員79名が校外研修に参加。ポニーを約50日間調教に出し、教員研修にも9名が参加した。	B	①②保護者アンケートでは児童生徒の実態に応じた教育の実施について一定の成果が確認出来たが、長期的視点を踏まえた一層の充実が必要である。 ③④研修が指導の実際に十分生かされる必要がある。ICTの授業等での活用やポニーの自立活動での活用など成果はあったものの、活用に向けた体制の検討を含め、継続して取り組む必要がある。
2	○キャリア教育の視点を踏まえ、児童生徒の発達段階に即した系統的な指導の充実に取り組む必要がある。 ○生徒の多様化を踏まえ、多様な教育課程を編成して、自信を持って社会参加できる生徒を育成する必要がある。	キャリア教育の視点を踏まえた系統的な指導の充実 障害に応じた多様な教育課程の編成	①キャリア教育の視点を踏まえた発達段階に応じた系統的な指導内容の具体化と実践 ②企業や関係機関等と連携した進路指導の充実 ③高等部生徒の多様化に対応する教育課程の編成(類型・学科設置等の検討を含む) ④社会自立に向けた余暇利用に関する実践力の育成	①学部ごとにねらいを明確にした系統的な指導実践が進んだか。 ②進路指導の充実が図れたか。 ③高等部の多様な教育課程の編成が具体化したか。 ④学部段階に応じて部活動(運動部・文化部)に活発に取り組んだか。	①小中学部の生活単元学習、高等部の作業学習などキャリア教育の視点を踏まえて発達段階に応じた指導を進めた。 ②企業対象の学校公開、地元企業の支援を受けた作業学習などを実施。生徒の実情を踏まえた進路指導に取り組んだ。 ③先進校視察5校実施。情報収集と職員への情報提供、委員会での検討を実施した。 ④運動部活動のほかスクールバス部活を中心に文化部活動も実施。	B	①学部内での共通理解を深めると共に、教育課程を含む学部を超えた系統性に係る検討も必要である。 ②進路先の継続的開拓が必要である。進路を意識したより実践的・効果的な指導機会の検討と充実が必要である。 ③H27前半に教育課程の詳細な検討と具体化が必要である。 ④部活動(運動・文化)の継続的な取組が必要である
3	○成熟した特別支援学校として、センター的機能を発揮した取組を充実させる必要がある。 ○地域や県民に学校の取組を積極的に発信し理解していただく必要がある。 ○安心して学び、学ばせることのできる安全な学校づくりを一層推進する必要がある	センター的機能を発揮した地域支援・学校支援の充実 学校情報の積極的な公開と開かれた学校づくりの推進 安心安全な学校づくり	①親子教室の計画的な実施並びに関係機関と連携した早期支援に向けた取組の推進 ②全児童生徒支援籍実施に向けた取組の検討と実践 ③小中高校との連携や支援の充実 ④地域、保護者への学校・授業の積極的な公開 ⑤HPの積極的な更新や地域回覧板等を活用した時期を得た情報発信 ⑥緊急時における対応訓練の計画的実施 ⑦緊急時情報発信システムの定着	①親子教室を計画的に実施したか。関係機関と連携した早期支援の取組は進んだか。 ②支援籍の検討は進んだか。 ③小中高校との連携や支援に取り組んだか。 ④学校公開、授業公開時の参加者は増加したか。 ⑤タイムリーな学校情報の発信に取り組めたか。 ⑥緊急時における対応訓練を計画的に実施できたか。 ⑦緊急メール登録率は向上したか。	①親子教室10回実施28家族が参加。関係機関と連携した早期支援体制構築を確認。 ②52名が支援籍学習を実施。間接的な支援籍も実施した。 ③幼・小・中・高の要請に基づき約280件の支援・助言を実施。 ④全県一斉学校公開オープニングセレモニーを実施。文化祭来場者は1065名で過去最高となった。 ⑤HPによる情報発信を充実。回覧板による情報発信も実施。 ⑥学期ごとに避難訓練、不審者対応訓練等を実施。 ⑦登録率は86%に向上した。	A	①地域連携機関としての位置づけと継続的開催が課題。 ②ボランティアの継続的育成と活用方法の検討が必要である ③センター的機能を充実を図る。 ④学校公開期間以外にも学校を訪問する機会を設ける。 ⑤複数手段の情報発信の継続とHPの見易さの工夫を図る。 ⑥訓練内容の見直しや、地域自治会と連携した緊急時対応訓練の実施が必要である。 ⑦登録率の維持向上に取り組むが、未登録者個々の事情があり、更なる向上は難しい。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成27年 2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の児童生徒の実態に応じた指導の充実が、学校で一番大切なことである。100人いれば100通り。さらに一人一人に応じた指導が図られるようにしてほしい。</li> <li>保護者はよく勉強しており、教員の指導の様子もよく見ている。タイムリーに必要な支援や主体性を促す「待つ」指導も大切にしていきたい。</li> <li>保護者アンケートでは概ね良い評価であるが、厳しい評価にも目を向け、保護者の期待に十分応えてもらいたい。</li> <li>ポニーを夏に50日調教をした。児童生徒が関わる上で人を乗せる背の形や体力をつけることは大切なことである。</li> <li>地元の方とのパイプなどをより活用して、進路先の開拓が図られるとよい。</li> <li>高等部の卒業生の進路の状況はどうなっているのか。特例子会社とは何か。また企業等については、どういったところが受け入れているのか。</li> <li>自閉症やダウン症の児童生徒だけでなく、少ない障害についての理解など先生方には専門性を身に付けてもらい、家庭と学校が緊密な連携を図って取り組んでほしい。</li> <li>地域の避難所として、市役所の市民課や防災課などと学校とがよく確認をして、避難者の受け入れ体制を整えてもらいたい。</li> <li>秩父農工科学高校からの出前授業など、同年代の生徒同士が関わりを持つことは大変良いことである。</li> <li>昨年度は達成度がBであったが、Aにしたのは特別支援学校としてセンター的機能を十分発揮するなど、実績を上げているということか。</li> </ul>	

